平成25年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年２月６日

上 場 会 社 名　アニコム ホールディングス株式会社　　上場取引所　東証マザーズ
コ ー ド 番 号　8715　　ＵＲＬ　http://www.anicom.co.jp/
代　　表　　者　(役職名)　代表取締役社長　　(氏名)　小森　伸昭
問合せ先責任者　(役職名)　取締役経営企画部長　　(氏名)　須田　一夫　　(TEL)　(03)　5348-3911

四半期報告書提出予定日　平成25年２月12日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無　　：有
四半期決算説明会開催の有無　　：無

(百万円未満切捨て)

１．平成25年３月期第３四半期の連結業績（平成24年４月１日～平成24年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年 ３月期第３四半期	11,787	17.2	516	－	426	487.8
24年 ３月期第３四半期	10,061	25.3	25	△83.5	72	△65.0

(注)　包括利益　　25年 ３月期第３四半期　418百万円 (505.0%)　24年 ３月期第３四半期　69百万円 (△66.4%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年 ３月期第３四半期	25.49	23.58
24年 ３月期第３四半期	4.40	4.01

(注) 平成23年10月１日を効力発生日として、普通株式１株につき４株の割合をもって株式分割を実施しております。そのため、１株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後１株当たり四半期純利益につきましては、当該分割が前連結会年度の期首に行われたと仮定して、それぞれ算出しております。

（２）連結財政状態

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年 ３月期第３四半期	16,128	7,528	46.7
24年 ３月期	15,355	7,071	46.1

(参考) 自己資本　　25年 ３月期第３四半期　7,528百万円　　24年 ３月期　7,071百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年 ３月期	－	0.00	－	0.00	0.00
25年 ３月期	－	0.00	－		
25年 ３月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　　：無

３．平成25年３月期の連結業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通　期	15,970	15.3	829	146.0	630	35.5	37.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　　：無

※　注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：有
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：有
④　修正再表示　：無

（注）詳細につきましては[添付資料]Ｐ．２「サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご参照ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	16,870,400株	24年3月期	16,645,600株
②　期末自己株式数	25年3月期3Q	610株	24年3月期	610株
③　期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	16,748,341株	24年3月期3Q	16,493,493株

（注）平成 23 年 10 月１日を効力発生日として、普通株式１株につき４株の割合をもって株式分割を実施しております。そのため、期中平均株式数につきましては、当該分割が前連結会年度の期首に行われたと仮定して、算出しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]Ｐ．２「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 2
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 2
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 2
３．四半期連結財務諸表 …… 3
（１）四半期連結貸借対照表 …… 3
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 4
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 4
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 5
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 6
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 7
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 7
（６）セグメント情報等 …… 7
４．補足情報 …… 8
（１）平成25年３月期　第３四半期損益状況 …… 8
（２）経常収益の状況 …… 9
（３）種目別保険料・保険金 …… 9
（４）有価証券関係 …… 10
（５）ソルベンシー・マージン比率 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興関連事業などへの国内需要が堅調に推移するなかで、緩やかな回復基調にあったものの、欧州における財政問題の長期化や新興国経済の成長鈍化の影響などから、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループの中核子会社であるアニコム損害保険株式会社（以下、アニコム損保）では、今年度の重点施策として掲げる「新規契約獲得基盤の拡充」を図るべく、ペットを新たに飼い始める方々を保険募集の対象とする、全国のペットショップ代理店網における募集力の強化に注力いたしました。他方で、既にペットを飼われている方々を対象とする一般代理店網においては、新たに松本信用金庫、桐生信用金庫が加わるなど、地域密着の来店型代理店を中心に募集網の拡充・強化に努めており、新規契約の獲得は堅調に推移いたしました。また、平成24年８月から補償割合90％商品の引受を停止いたしましたが、新規募集への影響は軽微であり、契約継続につきましては、50％・70％補償割合商品への移行が堅調に進み、継続率は安定して推移いたしました。

一方、経常費用につきましては、適正な損害率コントロールに向けた施策の実施を推進しており、営業費及び一般管理費の効果的な費消と合わせて、支出の抑制に努めました。以上の施策を行った結果、当社グループにおける当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

保険引受収益11,570百万円、資産運用収益109百万円などを合計した経常収益は11,787百万円（前第３四半期連結累計期間と比べ1,726百万円増加・17.2％増）となりました。一方、保険引受費用8,329百万円、営業費及び一般管理費2,723百万円などを合計した経常費用は11,271百万円（同1,235百万円増加・12.3％増）となったことから、経常利益は516百万円（同490百万円増加・1,905.4%増）となりました。これに、特別損失、法人税及び住民税等などを加減した四半期純利益は426百万円（同354百万円増加・487.8％増）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

①貸借対照表の状況

当第３四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ773百万円増加して16,128百万円となりました。主な要因は、アニコム損保の営業活動により得られた資金（保険料収入）の増加に伴い、有価証券が1,127百万円増加したためであります。

負債合計は、正味収入保険料の増加にともない保険契約準備金が、前連結会計年度末に比べ202百万円増加したことなどにより、8,599百万円となりました。

純資産合計は、当第３四半期連結累計期間の四半期純利益により、前連結会計年度末に比べ約456百万円増加して7,528百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第３四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、アニコム損保において異常危険準備金の取崩が発生したことにより、前第３四半期連結累計期間に比べて369百万円収入が減少し、974百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得が増加したことから前第３四半期連結累計期間に比べて1,041百万円支出が増加し、1,547百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、新株予約権の行使にともなう株式の発行等により、36百万円の収入となりました。

これらの結果、当第３四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ537百万円減少し1,006百万円となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年３月期の業績予想につきましては、本資料の公表時点において、平成24年10月26日に発表しました業績予想から変更しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第３四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
現金及び預貯金	5,098	4,959
有価証券	7,444	8,572
有形固定資産	93	94
無形固定資産	387	380
その他資産	1,981	1,826
繰延税金資産	353	301
貸倒引当金	△5	△7
資産の部合計	15,355	16,128
負債の部		
保険契約準備金	7,152	7,354
支払備金	1,001	1,180
責任準備金	6,151	6,174
その他負債	1,073	1,207
賞与引当金	55	36
特別法上の準備金	0	1
価格変動準備金	0	1
負債の部合計	8,283	8,599
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,194	4,213
資本剰余金	4,084	4,103
利益剰余金	△1,211	△784
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,067	7,532
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3	△4
その他の包括利益累計額合計	3	△4
純資産の部合計	7,071	7,528
負債及び純資産の部合計	15,355	16,128

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
経常収益	10,061	11,787
保険引受収益	9,881	11,570
（うち正味収入保険料）	9,881	11,570
資産運用収益	68	109
（うち利息及び配当金収入）	66	94
（うち有価証券売却益）	1	14
その他経常収益	111	108
経常費用	10,035	11,271
保険引受費用	7,251	8,329
（うち正味支払保険金）	5,272	7,074
（うち損害調査費）	332	433
（うち諸手数料及び集金費）	570	619
（うち支払備金繰入額）	417	178
（うち責任準備金繰入額）	657	23
資産運用費用	1	0
（うち有価証券売却損）	0	0
（うち有価証券償還損）	0	－
営業費及び一般管理費	2,567	2,723
その他経常費用	215	218
（うち支払利息）	0	0
経常利益	25	516
特別損失	7	1
固定資産処分損	1	0
特別法上の準備金繰入額	0	0
価格変動準備金繰入額	0	0
東日本大震災義捐金	5	－
その他特別損失	0	－
税金等調整前四半期純利益	17	514
法人税及び住民税等	22	31
法人税等調整額	△76	56
法人税等合計	△54	88
少数株主損益調整前四半期純利益	72	426
四半期純利益	72	426

(四半期連結包括利益計算書)
(第３四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	72	426
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3	△8
その他の包括利益合計	△3	△8
四半期包括利益	69	418
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	69	418
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	17	514
減価償却費	59	68
支払備金の増減額（△は減少）	417	178
責任準備金の増減額（△は減少）	657	23
貸倒引当金の増減額（△は減少）	0	2
賞与引当金の増減額（△は減少）	△17	△19
価格変動準備金の増減額（△は減少）	0	0
利息及び配当金収入	△66	△94
有価証券関係損益（△は益）	△0	△14
支払利息	0	0
有形固定資産関係損益（△は益）	1	0
その他資産（除く投資活動関連、財務活動関連）の増減額（△は増加）	24	165
その他負債（除く投資活動関連、財務活動関連）の増減額（△は減少）	207	129
小計	1,303	955
利息及び配当金の受取額	60	49
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△20	△30
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,344	974
投資活動によるキャッシュ・フロー		
預貯金の純増減額（△は増加）	148	△398
有価証券の取得による支出	△2,709	△5,686
有価証券の売却・償還による収入	2,131	4,597
資産運用活動計	△429	△1,487
営業活動及び資産運用活動計	914	△512
有形固定資産の取得による支出	△10	△24
その他	△65	△35
投資活動によるキャッシュ・フロー	△506	△1,547
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	20	38
自己株式の取得による支出	△0	－
リース債務の返済による支出	△2	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	17	36
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	855	△537
現金及び現金同等物の期首残高	679	1,543
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,534	1,006

（４）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（６）セグメント情報等
Ⅰ 前第３四半期連結累計期間（自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）
報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他（注）１	合計（注）２
	損害保険事業		
外部顧客への経常収益	9,951	110	10,061
セグメント間の内部経常収益又は振替高	－	－	－
計	9,951	110	10,061
セグメント利益	6	19	25

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院支援事業、保険代理店事業等を含んでおります。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

Ⅱ 当第３四半期連結累計期間（自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日）
報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント	その他（注）１	合計（注）２
	損害保険事業		
外部顧客への経常収益	11,681	106	11,787
セグメント間の内部経常収益又は振替高	－	－	－
計	11,681	106	11,787
セグメント利益	504	11	516

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、動物病院支援事業、保険代理店事業等を含んでおります。
２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

４．補足情報

（１）平成25年３月期　第３四半期損益状況

（単位：百万円）

区分		前第３四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年12月31日）	比較増減	増減率
経常損益	保険引受収益	9,881	11,570	1,688	17.1%
	（うち正味収入保険料）	(9,881)	(11,570)	(1,688)	(17.1)
	（うち収入積立保険料）	(－)	(－)	(－)	(－)
	保険引受費用	7,251	8,329	1,078	14.9
	（うち正味支払保険金）	(5,272)	(7,074)	(1,801)	(34.2)
	（うち損害調査費）	(332)	(433)	(101)	(30.5)
	（うち諸手数料及び集金費）	(570)	(619)	(48)	(8.6)
	（うち支払備金繰入額）	(417)	(178)	(△238)	(△57.2)
	（うち責任準備金繰入額）	(657)	(23)	(△634)	(△96.5)
	資産運用収益	68	109	41	60.3
	（うち利息及び配当金収入）	(66)	(94)	(27)	(40.7)
	（うち有価証券売却益）	(1)	(14)	(13)	(1,246.2)
	資産運用費用	1	0	△1	△83.6
	（うち有価証券売却損）	(0)	(0)	(△0)	(△64.9)
	（うち有価証券償還損）	(0)	(－)	(△0)	(△100.0)
	営業費及び一般管理費	2,567	2,723	155	6.1
	その他経常損益	△103	△109	△5	5.7
	保険業法第113条繰延資産繰延額	－	－	－	－
	経常利益	25	516	490	1,905.4
特別損益	特別利益	－	－	－	－
	特別損失	7	1	△6	△84.7
	特別損益	△7	△1	6	△84.7
税金等調整前四半期純利益		17	514	497	2,787.3
法人税及び住民税等		22	31	9	45.1
法人税等調整額		△76	56	132	△172.9
法人税等合計		△54	88	142	△260.7
少数株主損益調整前四半期純利益		72	426	354	487.8
四半期純利益		72	426	354	487.8

（2）経常収益の状況

経常収益をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）	前年同 四半期比
	金額（百万円）	金額（百万円）	（%）
損害保険事業（ペット保険）	9,951	11,681	17.4
損害保険（アニコム損害保険㈱）	9,951	11,681	17.4
（うち正味収入保険料）	9,881	11,570	17.1
その他の事業	110	106	△3.3
動物病院支援	63	82	30.3
保険代理店	12	9	△22.2
その他	34	14	△57.5
合計	10,061	11,787	17.2

（注）　上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（3）種目別保険料・保険金

アニコム損害保険株式会社における保険引受の実績は以下のとおりであります。

①　元受正味保険料（含む収入積立保険料）

区分	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）			当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）		
	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）
ペット保険	9,881	100.0	26.1	11,570	100.0	17.1
合計	9,881	100.0	26.1	11,570	100.0	17.1
（うち収入積立保険料）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）	（－）

（注）　元受正味保険料（含む収入積立保険料）とは、元受保険料から元受解約返戻金及び元受その他返戻金を控除したものであります。（積立型保険の積立保険料を含む）

②　正味収入保険料

区分	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）			当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）		
	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）
ペット保険	9,881	100.0	26.1	11,570	100.0	17.1
合計	9,881	100.0	26.1	11,570	100.0	17.1

③　正味支払保険金

区分	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）			当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）		
	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	対前年同四半期 増減（△）率 （%）
ペット保険	5,272	100.0	53.2	7,074	100.0	34.2
合計	5,272	100.0	53.2	7,074	100.0	34.2

（４）有価証券関係

企業集団の事業の運営において重要なものであり、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

１．満期保有目的の債券

前連結会計年度（平成24年３月31日）

種類	連結貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
公社債	3,098	3,141	43
合計	3,098	3,141	43

当第３四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

種類	四半期連結貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
公社債	3,768	3,839	71
合計	3,768	3,839	71

２．その他有価証券

前連結会計年度（平成24年３月31日）

種類	取得原価（百万円）	連結貸借対照表計上額（百万円）	差額（百万円）
公社債	500	501	1
株式	3	3	△0
その他	3,814	3,819	4
合計	4,318	4,324	5

（注）時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。

当第３四半期連結会計期間（平成24年12月31日）

種類	取得原価（百万円）	四半期連結貸借対照表計上額（百万円）	差額（百万円）
公社債	300	300	0
株式	8	7	△0
その他	4,479	4,473	△5
合計	4,788	4,781	△6

（注）時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含めておりません。

（５）ソルベンシー・マージン比率

アニコム損害保険株式会社の「ソルベンシー・マージン比率」は、以下のとおりであります。

	前事業年度末 （平成24年３月31日） （百万円）	当第３四半期会計期間末 （平成24年12月31日） （百万円）
(A) ソルベンシー・マージン総額	5,415	5,541
資本金又は基金等	4,621	5,173
価格変動準備金	0	1
危険準備金	－	－
異常危険準備金	783	371
一般貸倒引当金	3	1
その他有価証券の評価差額（税効果控除前）	5	△6
土地の含み損益	－	－
配当準備金未割当部分	－	－
持込資本金等	－	－
繰延税金資産の不算入額	－	－
税効果相当額	－	－
負債性資本調達手段等、保険料積立金等余剰部分	－	－
控除項目	－	－
(B) リスクの合計額 $\sqrt{\{(R5+R8)^2+(R2+R3)^2\}}+R4+R6$	3,524	4,056
一般保険リスク（Ｒ５）	3,415	3,931
第三分野保険の保険リスク（Ｒ８）	－	－
予定利率リスク（Ｒ２）	－	－
資産運用リスク（Ｒ３）	136	146
巨大災害リスク（Ｒ６）	－	－
経営管理リスク（Ｒ４）	106	122
(C) ソルベンシー・マージン比率（%） [(A)/{(B)×1/2}]×100	307.2%	273.2%

（注） 上記の金額及び数値は、保険業法施行規則第86条及び第87条並びに平成８年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しております。

＜ソルベンシー・マージン比率＞

・損害保険会社は、保険事故発生の際の保険金支払や積立保険の満期返戻金支払等に備えて準備金を積み立てておりますが、巨大災害の発生や、損害保険会社が保有する資産の大幅な価格下落等、通常の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。

・こうした「通常の予測を超える危険」を示す「リスクの合計額」（上表の(B)）に対する「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」（すなわちソルベンシー・マージン総額：上表の(A)）の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「ソルベンシー・マージン比率」（上表の(C)）であります。

・「通常の予測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額をいいます。

① 保険引受上の危険（一般保険リスク）（第三分野保険の保険リスク）：保険事故の発生率等が通常の予測を超えることにより発生し得る危険（巨大災害に係る危険を除く）

② 予定利率上の危険（予定利率リスク）：実際の運用利回りが保険料算出時に予定した利回りを下回ることにより発生し得る危険

③ 資産運用上の危険（資産運用リスク）：保有する有価証券等の資産の価格が通常の予測を超えて変動することにより発生し得る危険等

④ 経営管理上の危険（経営管理リスク）：業務の運営上通常の予測を超えて発生し得る危険で上記①～③及び⑤以外のもの

⑤ 巨大災害に係る危険（巨大災害リスク）：通常の予測を超える巨大災害（関東大震災や伊勢湾台風相当）により発生し得る危険

・「損害保険会社が保有している資本金・準備金等の支払余力」（ソルベンシー・マージン総額）とは、損害保険会社の純資産（社外流出予定額等を除く）、諸準備金（価格変動準備金・異常危険準備金等）、土地の含み益の一部等の総額であります。

・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に、経営の健全性を判断するために活用する客観的な指標のひとつでありますが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされております。